

ロスキレ大聖堂

報告者：堺 園子



首都がコペンハーゲンに遷都するまで、王室の町、港町、商業都市として、国の中心地として栄えていた…とのことだが、今はしっとりと落ち着いた街のたたずまいと、町のどこからも見ることができる世界遺産・ロスキル大聖堂の町です。緑に囲まれ、あの厳かな鐘の音を聞きながら暮らす人々がうらやましい…。現在の聖堂は宗教戦争後、1774年から1825年、何と50年もかけて建てられている。尖塔が二つのプロテスタント様式、またレンガ造りは当時の最先端建築様式だった。世界中の様々な国からの賓客も訪れた聖堂前に立つと、世界の歴史の中に入った気分…周囲を見回しても、古い町のたたずまい、石畳の間から馬車の軋む音が聞こえてくるような気がします。

でも、ここは21世紀のデンマーク。障がいのある人も健康な人も、同じように暮らすことができる「ノーマライゼーション」発祥の国です。石畳にも景観を損なわないよう配慮された、車椅子や、乳母車等がスムーズに移動することができるよう、細い通路が縦横に走っていてその通路を辿っていくと、正面玄関右側に小さな入口がありました。ごく自然に図書館に入るような入口に受付がある。ちなみに正面玄関のブロンズ製大扉は王室への賓客の来訪時と結婚式が終わった時にだけ、大扉が開かれるとのこと。大扉には「復活さ

れたキリストが盲目の人と食事を共にしている間に、目が見えるようになった」という聖書の言葉が描かれています。

中に入ると、アーチ型の高い天井、そして祭壇の黄金に輝くキリストの生涯を描いた大きなレリーフが目飛び込んで来ました。祭壇に続く中央津路には墓石が敷き詰められています。この大きな聖堂には中央の、この聖堂の1代目の主、マルグレーテ I 世の棺を含め、11名のデンマーク王の棺が一つ一つが様々な大理石の彫刻で飾られ、建物両側の小礼拝堂に収められています。各々多くの宝物、名画等が展示されていて、短い時間では十分に見ることはできませんでした。

このツアーの早朝散歩が組まれていて、ロスキルの町を堪能することができました。高台にある聖堂は何処からでも見ることができ、この町に住む人々の支えとなりました。街のあちこちに飾られた花々、そして時を知らせる鐘の音、昔からの景観が守られたロスキルの町の景観は、この地を愛する住民の暮らしの中に溶け込んで、落ち着いたデンマークの暮らしぶりから、いつまでも守られることでしょう、

最終日、寸暇を惜しんでホテルを抜け出し、もう一度世道前に行き、その姿をしっかりと目に焼き付けました。また訪れる機会がありますように…。

